

2026 年 6 月 旅行取扱高状況報告

< 日本国内における旅行区分別取扱高 >

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年同月比
海外旅行	21,247,110	21,167,008	100.4%
国内旅行	3,666,473	3,928,419	93.3%
訪日旅行	981,792	1,154,120	85.1%
合 計	25,895,377	26,249,549	98.7%

※株式会社エイチ・アイ・エス及びグループ 5 社（株式会社オリオンツアー、株式会社クオリタ、株式会社クルーズプラネット、株式会社ジャパンホリデートラベル、株式会社エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した旧会計基準の取扱高となります。

< 海外旅行取扱高 方面別・商品別・チャネル別データ >

方面別	前年同月比
アジア	112.2%
オセアニア・南太平洋	117.4%
ハワイ・ミクロネシア	86.0%
欧州・中近東・アフリカ	96.5%
北米・中南米	99.1%

商品別	前年同月比
手配旅行	100.7%
企画旅行	100.0%

チャネル別	前年同月比
店舗	98.7%
オンライン	102.0%
法人	101.4%

■ 海外旅行

航空会社の燃油サーチャージ高騰への対策や夏休みシーズンに向けた需要喚起として、6 月 1 日より「選んで正解！豪遊！GO YOU！オーストラリアキャンペーン」を開催し、主要 5 都市での特典付帯による早期予約の促進に努めました。また、近隣エリアのさらなる需要底上げのため、現地での滞在価値を高める特典を盛り込んだ「GO！GO！韓国キャンペーン」を 6 月 30 日より首都圏発にて新たに開始しました。取扱高においては、間際需要を力強く取り込んだ韓国が前年同月比 117.4%と大幅に伸長しました。一方で、円安や現地の物価高の影響が続くハワイ・ミクロネシア方面が低調に推移し、全体の伸びを鈍化させる要因となりました。その他、長距離路線において欧州方面は前年並みで推移したものの、中近東方面が情勢悪化の影響を強く受け、前年同月比 62.4%と大きく落ち込みました。

以上の結果、海外旅行取扱高は、前年同月比 100.4%の 212 億 4,711 万円となりました。

■ 国内旅行

夏休みシーズンの需要を強力に牽引するため、6 月末より総決算セール「スーパーサマーセール ファイナル」を開催。人気ツアーを目玉商品として展開するほか、沖縄の家族旅行や全国のホテル予約で使える最大 10%割引となるクーポンの配布、国内航空券予約サイトでの「スカイマーク往復航空券・取扱手数料半額クーポン」の提供などを通じ、積極的な予約獲得に努めました。取扱高としては、九州方面が前年同月比 137.0%と好調に推移したほか、北海道方面も同 101.7%と堅調な結果となりました。一方で、国内旅行全体を牽引する主力の沖縄方面が同 86.2%にとどまりました。今年は台風の影響で梅雨明けが 29 日頃まで長引いたことで、過去最速級（6 月 7 日頃）に梅雨明けした前年との大きな反動が生じ、間際需要の取り込みに苦戦する要因となりました。

以上の結果、国内旅行取扱高は、前年同月比 93.3%の 36 億 6,647 万円となりました。

■ 訪日旅行

HIS 単体の訪日旅行事業は、中東情勢に伴う一部キャンセルや燃油サーチャージ高騰によるツアーの少人数化などの影響を受け、前年同月比 95.5%となりましたが、団体旅行においては、注力する北米市場からの受客が同 112.9%と好調に推移しました。また、個人旅行においては、中部エリアでの大相撲名古屋場所観戦ツアーの完売や、西日本エリアでの間際予約への対応・多言語オーディオガイドの導入など、多様な需要の獲得に努めました。ジャパンホリデートラベルにおいては、台風接近による沖縄方面の減収や個人旅行の苦戦があったものの、団体旅行の取扱高において、同 108.0%と前年を超えて推移しました。特に、中国需要の減少に伴い戦略的シフトを進めた台湾からの受客が大幅に伸長したほか、タイや欧米圏も好調を維持し、全体の取扱高を下支えしました。

以上の結果、訪日旅行事業全体の取扱高は、前年同月比 85.1%の 9 億 8,179 万円となりました。

2026 年 6 月の日本国内における旅行取扱高合計は、前年同月比98.7%の 258 億 9,537 万円となりました。

2026 年 6 月 海外における旅行取扱高状況報告

＜ 海外における旅行区分別 ＞

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年同月比
インバウンド	15,841,005	16,861,372	93.9%
アウトバウンド	7,953,076	9,616,290	82.7%
合 計	23,794,082	26,477,662	89.9%

※エイチ・アイ・エス海外現地法人 31 社と海外子会社 4 ブランド (MIKI グループ、MERIT TRAVEL、JONVIEW CANADA、RED LABEL VACATIONS) の社内取引相殺前の取扱高となります。なお、為替換算レートにつきましては、期中平均レートにて算出しております。

※海外におけるインバウンドとは、各海外拠点における旅行受客業務の取扱高。 海外におけるアウトバウンドとは、各海外拠点における旅行送客業務の取扱高。

※HIS 欧州現地法人の一部と MIKI グループとの統合により調整後の取扱高を反映しております。

■海外インバウンド

ベトナムでは、オーストラリアやイギリスなど日本以外の市場において、国際花火大会を目的とした旅行需要を獲得し、前年同月比 138.0%となりました。また欧州方面では、中東情勢の影響が長引く中でも、ドイツで韓国からのツアー受客が好調に推移し同 116.2%となったことに加え、イギリスでも中国からの受客増加により同 132.9%となるなど、ノンジャパニーズの獲得強化が奏功し、前年並みを維持しました。

中近東方面では、地域情勢の緊迫化に伴う一部空域制限やツアーの催行中止が響き、取扱高の押し下げ要因となりました。また、これまで好調を牽引していたカナダでは、サッカーの国際大会開催に伴う主要都市の宿泊費の高騰や混雑を敬遠する動きから、カナダ全土への旅行需要が一時的に冷え込み、同 81.0%となりました。

以上の結果、海外インバウンド取扱高は、前年同月比 93.9%の 158 億 4,100 万円となりました。

■海外アウトバウンド

インドネシアでは、スクールホリデーの需要を捉え、インドネシア国内や日本、近隣東南アジア諸国への航空券手配に加え、日系企業の社員旅行や MICE といった団体旅行の受注により、前年同月比 101.5%となりました。

当社グループ内の送客取扱高 8 割以上を占めるカナダでは、主力であるカリブ海行きのオールインクルーシブパッケージツアーが堅調に推移したものの、航空会社のさらなる路線縮小に伴うアメリカ行きの需要減少や、中東情勢に伴う減便・燃油サーチャージ値上げによる欧州・中東方面の予約数減少、さらには燃料不足によりキューバ行きツアーの催行中止が続いたことなどが響き、同 89.7%となりました。また、送客取扱高の約 1 割を占めていたトルコでは、ローカル向けアウトバウンド事業からの撤退により、同 5.6%に留まりました。(この影響は 2026 年 8 月まで継続する見込みです。)

以上の結果、海外アウトバウンド取扱高は、前年同月比 82.7%の 79 億 5,307 万円となりました。

2026 年 6 月の海外の旅行事業取扱高合計は、前年同月比 89.9%の 237 億 9,408 万円となりました。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス I R 室：050-1746-4188
 広報室：050-1746-4177